練習課題1

次のそれぞれの関数の計算量がどの程度になるか予想して、O記法で表してみてください。

関数 1

```
function uniq1(array) {
    const knownElements = {};
    const uniquedArray = [];
    for (const elem of array) {
        if (elem in knownElements)
            continue;
        uniquedArray.push(elem);
        knownElements[elem] = true;
    }
    return uniquedArray;
}
```

関数 2

関数 3

```
function uniq3(array) {
    const knownElements = new Set();
    for (const elem of array) {
        knownElements.add(elem);
    }
    return Array.from(knownElements);
}
```

関数 4

```
function uniq4(array) {
    const knownElements = {};
    const uniquedArray = [];
    for (let i = 0, maxi = array.length; i < maxi; i++) {
        if (array[i] in knownElements)
            continue;
        uniquedArray.push(array[i]);
        knownElements[array[i]] = true;
    }
    return uniquedArray;
    };
}</pre>
```

関数 5

```
function uniq5(array) {
    const uniquedArray = [];
    for (const elem of array) {
        if (!uniquedArray.includes(elem))
            uniquedArray.push(elem);
    }
    return uniquedArray;
}
```

関数 6

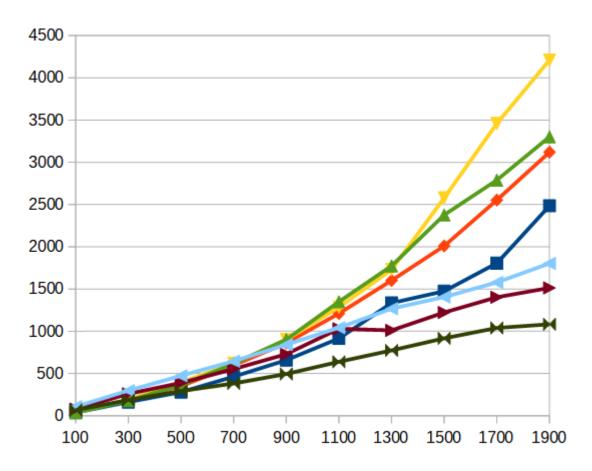
```
function uniq6(array) {
    const knownElements = new Map();
    const uniquedArray = [];
    for (const elem of array) {
        if (knownElements.has(elem))
            continue;
        uniquedArray.push(elem);
        knownElements.set(elem, true);
    }
    return uniquedArray;
}
```

練習課題3

課題1の6つの関数はすべて、与えた配列から重複を取り除く JavaScript の関数です。

それぞれの関数について、配列の要素数が 100、200、300、400……と増加していったときの計算量の増大の仕方が、予想した O 記法の通りであるかどうかを確認したいです。

以下のようなグラフで確認するとして、必要な情報を得る方法を考えて、実装してみてください。



必要な情報を得る方法を考えて、実装してみてください。

グラフを作るためには、以下のような表形式で表現できる情報が必要です。

要素数	所要時間(ミリ秒)
-----	-----------

100	200
200	400
300	600

任意の処理の所要時間を計測する方法は、以下の要領です。

1	let startAt = Date.now();
2	(何らかの処理)
3	let delta = Date.now() - startAt;
4	// この「delta」が所要時間をミリ秒で表した数値となる

任意の個数の重複を含む配列を作成する処理は、以下の要領です。

```
function prepareArray(length) {
    const array = [];
    for (let i = 0; i < length; i++) {
        array.push(parseInt(Math.random() * (length / 10)));
    }
    return array;
}</pre>
```

実行環境の性能によっては、配列の要素数が小さいと、グラフで確認できるほどの所要時間がかからない場合があります。その場合、要素数の初期値や、1回ごとに増加させる要素数を、より大きな数字にするとよいでしょう。

JavaScript が不得手な方は、別の言語で実装してもよいものとします。 また、近くの他の受講者の方と協力して実装してもよいものとします。

練習課題3

課題1の6つの関数よりも性能が良い(計算量が小さい・所要時間が短い)アルゴリズムがあるかどうかを考えて、実装し、性能を計測してみてください。

JavaScript が不得手な方は、別の言語で実装してもよいものとします。 また、近くの他の受講者の方と協力して実装してもよいものとします。